

スパルタシスト



付録 50円

2006年7月15日

左翼はミサイル実験をめぐる帝国主義の狂乱に屈服する

北朝鮮を防衛せよ！

7月15日。日本政府は、7月5日の北朝鮮による複数のミサイル発射実験に対して、ブッシュ政権内の戦争狂いの同盟者たちと同様に好戦的な態度を取っている。官房長官や防衛庁長官は、北朝鮮政府に対して先制攻撃を仕掛けると威嚇する一方で、北朝鮮が防御兵器を破棄するよう要求している。その一方で、日本の外務省は飢餓をもたらす経済制裁を発動するよう国連に働きかけている。しかし、完全武装した帝国主義者たちが北朝鮮のミサイル実験に対してわめき立て非難を浴びせるといのはまったくの偽善というほかない。米国と日本は日常的に合同軍事演習を実施し、そしてこの演習は北朝鮮と中国の歪曲された労働者国家に対する挑発そのものである。世界第二位の先進技術の軍備と世界第三位の軍事予算をもつ日本の軍隊は、先週ハワイ州カウアイ島沖でミサイル実験を実施しているのである。（『人民日報』、7月9日号）

われわれは、トロツキストとしてまた「自国」ブルジョアジーの非妥協的な反対者として、帝国主義の挑発や脅迫や攻撃に対し、また内部の反革命に対して、中国、ベトナム、キューバの歪曲された労働者国家と同様に、官僚主義的に歪曲された北朝鮮労働者国家を無条件に軍事的に防衛する立場に立つ。われわれによるこうした国々の無条件の軍事的防衛は、こうした国家の階級的性格に基づいている。これらの国々は、資本主義を打倒した社会革命によって打ち立てられ、帝国主義の従属から解放され、集産化された経済を確立した労働者国家である。文明を破壊する手段をその手に握っているのは正に帝国主義者なのだ。核戦争の恐怖によって抑制されないのは、卑劣で民族主義の寄生的なスターリニスト官僚カーストではなく、帝国主義者に他ならないのだ。

米国と日本に率いられた帝国主義諸列強は、北朝鮮と中国の歪曲された労働者国家を破壊し資本主義を復活するという根本的に同一のプログラムを共有している。しかし、帝国主義列強諸国の中に、また帝国主義列強諸国が影響を及ぼそうとする国々の間に、時々利害の対立が発生する。そしてこの利害対立は、さしあたり帝国主義列強諸国が戦争へと向かう経済制裁を実行する武器として国連を巧みに使うことを妨げているのである。国連は帝国主義の盗人どもとその犠牲者たちの巣窟である。1991年と2003年の対イラク戦争は、いずれも、国連の課した制裁措置によって先行され準備が整えられた。そして、こうした制裁措置は150万に達するイラクの人々を死に追いやったのである。経済制裁反対！日本の国家は、朝鮮総連関連施設前に警官の動員を組織し、

北朝鮮に対する制裁反対！北朝鮮から手を引け！

また日本と北朝鮮の間の渡航を禁止した。われわれは次のように主張する。朝鮮総連から手を引け！万景峰92号を新潟に入港させよ！

一方、中国は、北朝鮮政府に対し核武装解除を要求する六カ国協議の場に復帰するよう圧力を加えつつ、自身の非難決議案を国連安保理に提示した。中国は制裁措置に反対するものの、その動議は北朝鮮があらゆるミサイル実験を止めるよう要求している。帝国主義との「平和的共存」が可能であり、社会主義は一国で建設可能であるといった中国政府のスターリニストたちの幻想は、ただ中国自身の防衛を掘り崩すだけである。そしてこうした幻想は、国際的な労働者革命への展望に反対し、世界帝国主義に順応することを意味する。同様に、金正日のスターリニスト政権による極度の民族主義や、例えば「太陽政策」といった韓国の資本家階級との階級協調政治は、北朝鮮の防衛にとって障害物である。われわれはプロレタリア政治革命の立場に立つ。この革命は、スターリニスト官僚を一掃し、プロレタリア支配の機関である民的に選出された労働者と農民のソビエトに置き換えるものである。

日本の改良主義左翼は、ブルジョアジーの露骨な報復主義を非難する一方で、北朝鮮に対する階級的憎悪を含め、ブルジョアジーが前提としている多くをイデオロギー的に受け入れている。日本のブルジョア労働者諸党の指導者たちは、自国のブルジョアジーが北朝鮮に対して講じるいかなる措置も支持する事実を受け入れるよう党員に働きかけている。改良主義左翼は、半ば飢えた北朝鮮の歪曲された労働者国家を「アジアの平和にとって主要な脅威」であると描き出し、また世界で二番目に強大な帝国主義国家である日本帝国主義を犠牲者だと描こうとしている。日本共産党は日本資本主義国家に急いでその忠誠心を示し、ミサイル実験を行ったとして北朝鮮をいち早く非難し、彼らが経済制裁には反対しないと表明した（『赤旗』、7月5日と6日号）。社民党は、北朝鮮が「北東アジアの緊張を高めた」として非難している（7月5日の社民党ホームページの声明）！しかし、こうした非難は、日米両国がその反革命的軍事同盟を強化し、北東アジア地域に少なくとも10隻のイージス艦を集結させている只中でなされたのである。労働組合の誤った指導部は資本家による日本の労働者への経済攻撃に対して闘うことを拒絶した。しかし彼らによる資本主義の容認や経営者との「協力関係」は、異なった仕方で表現されている。連合は日本政府が「迅速に経済制裁を発動する」よう要求した（7月5日）。そして歪曲された労働者諸国家に対して「自国」ブルジョアジーの背後に整列している。また、全労連は、経済制裁や万景峰92号入港禁止に反対する一方で、彼らは北朝鮮のミサイル実験を批難し、北朝鮮が2002年の「日朝平壤宣言」を遵守するよう要求している。しかし、この宣言は北朝鮮があらゆる問題において日本に屈した合意だったのである。

中核と革マルは帝国主義者による反北朝鮮の大合唱を繰り返しており、北朝鮮の核兵器やミサイル実験を「反人民的」と呼んでいる。そして中核は経済制裁が「何事も解決しない」ので反対だと泣きごとを述べている（『前進』、7月17日号）。このことはただ、もし経済制裁が北朝鮮の武装解除に有効であるとすれば、中核は経済制裁に賛成するということを意味する。中核と革マルは「侵略戦争」に反対することについて書いている。しかし、彼らの「反帝国主義、反スターリン主義」という第三陣営綱領では、北朝鮮を核武装した帝国主義の狂人から無防備なままにさせてしまうのだ。従って、中核も革マルも帝国主義の側に立っているのである。日本の左翼の資本主義支配階級への屈服は政府の支配を強化している。この屈服は、国内における労働者階級やマイノリティへの増大した攻撃だけでなく、日本帝国主義の加速する軍国主義化の基盤を築く手

助けをしているのである。

われわれは、米国の原子力空母の横須賀配備に抗議する7月9日の集会において、日本帝国主義に反対すること、そして北朝鮮と中国の防衛のために闘うことが、いかに日本の労働者階級にとって直接的な階級利益となるかを労働者や若者たちと議論した。他の左翼と同様に日本共産党もブルジョア憲法の第9条に全幅の信頼を置いている。その憲法第9条の下で、すでに大規模な再軍備を果たしており、帝国主義軍隊を海外へと派遣して、イラクやアフガニスタンの血塗られた占領に加担しているのである。われわれは憲法のいかなる反動的改正にも反対である。しかし、われわれは、東洋の労働者や勤労者の最大の搾取者である日本の資本主義支配階級に向かって、自身を改良せよと訴えたりはしない。いかなるブルジョア憲法も帝国主義戦争を阻止することなどできないのだ。社会主義革命において権力を奪取した労働者階級だけが、資本主義制度を打倒し、きっぱりと帝国主義戦争を終焉させることができるのである。われわれは言う。帝国主義の軍隊に一人も一円も出すな！

日米両国の支配階級は、中国と北朝鮮の革命の社会的獲得物を破壊しようともくろんでいる。これこそ日米の反革命的軍事同盟の目的であり、東アジア地域に対弾道ミサイル・システムを配備する目的なのである。われわれは昨年、台湾が日米の「共通の戦略目標」と言明した共同声明に反対して、スパルタシスト同盟／米国の同志と共に発した共同声明なかで、次のように書いた。「われわれは、プロレタリアートと抑圧された人々を貪欲な日米両帝国主義強国の打倒へと導くため、革命的労働者党とレーニン主義-トロツキー主義のインターナショナルを建設するために闘っている。…太平洋の両側で日米の反革命同盟を労働者革命を通じて粉碎せよ！」（「米国／日本の反革命同盟を打倒せよ！中国と北朝鮮の歪曲された労働者国家を防衛せよ！」、『スパルタシスト』30号、2005年5月）

以下の文章は、国際共産主義者同盟（第四インターナショナリスト）の米国支部の機関紙『労働者前衛（Workers Vanguard）』、2006年7月7日号に収められた記事の翻訳である。

7月4日。米日帝国主義者による一致共同した脅しの只中で、北朝鮮の歪曲された労働者国家は、今日、日本海に複数のミサイルを発射した。日本の共同通信社が、発射されたのはノドン中距離弾道ミサイルだったと伝える一方で、CNNは、米国政府筋による情報として、数発のスカッド短距離弾道ミサイルと共に、少なくとも一発のテポドン2号長距離弾道ミサイルが発射されたが、それは飛行に失敗したと伝えている。

帝国主義者たちは、北朝鮮が多段式によるテポドン2号ロケットの発射実験の準備を進めると主張してきた。そうしたなかで、日本の小泉純一郎首相は、日本が「断固とした態度で臨む必要がある」と言明した。そして今日、米国務省のある高官は、北朝鮮のミサイル発射を「挑発行為」である非難した。一方北朝鮮の外交官は、先月国連で次のように述べている。「北朝鮮は主権国家として、ミサイルを開発し、配備し、発射実験し、輸出する権利を有している。われわれは、米国がミサイル発射実験に懸念を抱いているのを承知している。したがって、われわれはこの問題を交渉を通じて解決するべきであるという立場である」（『ワシントン・ポスト』、6月22日号）。

米国民民主党の主要な議員たちは、北朝鮮のミサイルに対してあまりに過敏な態度を示している
ので、狂気したブッシュ政権さえも比較的温和に見えるほどである。クリントン元大統領の下で
国防長官を務めたウィリアム・ペリーとその国防次官補だったアシュトン・カーターは、『ワシ
ントン・ポスト』(6月22日号)への共同寄稿で、次のように言明した。米国は「北朝鮮がテポ
ドン・ミサイルを発射する前に、ミサイルを攻撃し破壊するつもりであるということを手だちに
明確にすべきである。こうした攻撃は、高性能爆薬弾頭を艦載した潜水艦から巡航ミサイルを発
射することで成し遂げることができるだろう。」危機感を募らせた『ニューヨーク・タイムズ』(6
月26日号)は、そうした「朝鮮に関する実に悪い考え」に対して社説で反論している。また米
国副大統領のディック・チェイニーも次のように述べている。「他国に攻撃を仕掛けようとい
うのであれば、単発の攻撃だけでは済まないということを覚悟しなければならない。」

米国政府内の戦争屋たちは、北朝鮮が攻撃を仕掛けようとしているというばかげた嘘を喧伝し
ている。実際、米国の軍事マシンの標的になっているのは、まさに北朝鮮なのである。ちょうど
終了したグアム島周辺海域での軍事演習「勇敢な盾」には、米軍の航空母艦3隻が、ベトナム戦
争以来初めて、太平洋上で同時に集結した。先月、日本は北朝鮮を監視するために艦船と航空機
を派遣した。その一方で、米国は沖縄にパトリオット・ミサイル迎撃システムを設置しようとし
ている。米国はさらに、最新式偵察機を韓国に配備した。そして北朝鮮はその領空を繰り返し
偵察飛行したとして米国を非難している。

米国の資本主義支配者たちは、資本家と地主支配が第二次大戦後にソ連軍の保護の下で打倒さ
れ、朝鮮半島の北半分が帝国主義支配から解放され、プロレタリアの集産化した所有関係が確立
して以来、北朝鮮を破壊しようともくろんできた。韓国でアメリカ占領軍が労働者や農民による
革命的蜂起を潰そうとしてきた時期に、北朝鮮は歪曲された労働者国家となった。そして国家誕
生時から故金日成の下で民族主義のスターリニスト官僚に支配され、現在は金日成の息子である
金正日に統治されている。

米国とその帝国主義同盟諸国は、1950年から53年に勃発した朝鮮戦争で朝鮮半島を荒廃させ、
およそ3百万もの朝鮮人を殺戮したのである。そして帝国主義者たちは、朝鮮での社会革命だけ
でなく、1949年の中国革命をも「打倒し」ようとするなかで、朝鮮半島全土を高性能爆弾やナ
パーム弾で破壊したのである。しかし、こうしたもくろみは、大規模な中国の軍事介入による支
援のもとで、朝鮮の労働者や農民たちの英雄的な闘争によって阻止された。しかし今日まで、米
国は韓国軍と共に資本主義韓国に約3万の軍隊を依然として保持し、あの英雄的な闘争による勝
利を覆そうと専念しているのである。米軍は朝鮮から今すぐ出て行け！

米国政府は朝鮮戦争の際に、民主党のハリー・トルーマン大統領のもとで、北朝鮮に対する核
攻撃の準備を進めていた。しかし、ソ連の新たに開発した核兵器の保有を含む軍事力だけが、こ
の攻撃を妨げたのである。北朝鮮は現在、米太平洋艦隊に配備された兵器も含め、米帝国主義者
による大量の核装備の標的に晒されている。しかし、こうした核装備の主要な戦略的標的は、残
存する官僚主義的に歪曲された労働者国家のなかでも最も強力な中国に他ならない。日米両国は
昨年、中国に対する危険な挑発行為の一つとして、資本主義台湾を「共通の戦略目標」とする
という不気味な宣言を行った。また米帝国主義は、資本主義反革命推進の一部として、オース
トラリアに新たに二つの巨大な基地を建設するという計画を含め、中国に対して軍事的包囲を追及し

続けているのである。

われわれは、トロツキストとして、帝国主義の攻撃や内部の反革命に対して、キューバとベトナムの歪曲された労働者国家同様、北朝鮮と中国を無条件に軍事的に防衛せよと呼びかける。挑戦を受けない米帝国主義による全世界での核覇権に直面するなかで、今日国家の主権を唯一実効的に保証するのは、確かな核抑止力を保持することである。このことは、資本主義イランの核開発プログラムに対する帝国主義者の脅しに極めてよく現われている（「米国はイランから手を引け！」、『労働者前衛 (Workers Vanguard)』863号、2月3日を参照）。北朝鮮は核兵器をすでに開発したと主張しており、テポドン2号はこうした兵器を支援するのに決定的なものになりうるだろう。核兵器は帝国主義の攻撃を抑止するため、また国際的労働者階級の歴史的獲得物である労働者国家を防衛するために、必要不可欠なのである。

中国の温家宝首相は、帝国主義者が北朝鮮に対して発した警告を、裏切りのように繰り返している。そして先月には、さまざまな「関連諸国」にたいして、「朝鮮半島での安定を維持することの一層大きな利益から取りかかり、状況を悪化させる方策を取るのには差し控える」よう呼びかけた。さらに帝国主義者が北朝鮮の核の武装解除を期待する「六カ国協議」に北朝鮮政府が復帰するよう圧力をかけ続けているのである。帝国主義との「平和的共存」が可能だとする中国政府のスターリニストたちの幻想は、中国自身の防衛を掘り崩しているのである。同様に、金正日による身内びいき主義でカルト的なスターリニスト政権もまた、寄生的な官僚カーストを率いている。こうした官僚カーストの極度の民族主義と階級協調主義の政治は、北朝鮮を防衛するうえで障害物となっているのである。

われわれは朝鮮の革命的再統一のために闘っている。つまり、韓国での社会主義革命と、北朝鮮でのスターリニスト官僚を一掃する労働者政治革命のために闘っている。この革命的再統一に向けた闘いは、中国におけるプロレタリア政治革命のための闘争に結合されなければならない。そして、プロレタリア権力を、アジアの産業中心地である日本と帝国主義の巨人である米国に拡張することへと結び付けられなければならない。

イラクには穏健に、北朝鮮には強硬に

米国にとって、その軍隊が占領において泥沼状態に陥っている半植民地のイラクに侵略することと、自身を防衛するある手段を有している北朝鮮を付け狙うこととは、まったく別のことである。イラクに関してブッシュに反対した民主党員の多くは、イラク戦争が米帝国主義の利益への「真の脅威」から注意をそらすものと不平を述べ、真の脅威としてイランと北朝鮮を挙げている。例えば、民主党の「進歩」派の典型的的代弁者で、黒人女性のバーバラ・リー下院議員は、当時国務長官だったコリン・パウエルにたいし、イラク侵略の直前に開かれた下院委員会での聴聞会で、次のように問いただした。「政府はいったいどうしたら、イラクに集中している同様の注意を、核やミサイルの能力を実証している北朝鮮に対して向けるのでしょうか？」バーバラ・リーは、ブッシュの「先制攻撃戦略」に代わる選択肢として、クリントン政権下で実施された宥和的な「包容政策」を支持しているが、クリントン政権当時には、ウィリアム・ペリーが（とりわけ中心となって）、1994年に北朝鮮の核関連施設を空爆するという計画を策定していたのである。

国際社会主義協会 (ISO) や労働者世界党 (WWP) のような改良主義のグループが、イラクへの侵略や占領を通じて、階級協調主義の「平和」連合において盛んにもてはやしたのは、正にこうした「反戦」の民主党員たちなのである。WWP はスターリニストの金正日政権への政治的支持を主張している。それにたいし、反共の ISO は北朝鮮の歪曲された労働者国家に公然と敵対している。ところが彼らは、米帝国主義の「リベラル」派にたいして、その血塗られたイラク支配にもっと人道的な顔を与えるよう圧力をかけるといった同様の綱領を共有しているのである。

ISO の政治的首領であったイギリスの故トニー・クリフは、朝鮮戦争時にトロツキスト運動から分裂した。この時クリフは、「民主主義的な」米英帝国主義によって実行された反革命戦争に対して、ソ連邦と中国と北朝鮮を防衛することを拒絶したのである。ISO は 1991 年から 92 年にかけてのソ連邦の反革命的破壊を歓迎した。この反革命的破壊は世界中の労働者階級にとって巨大な敗北に他ならなかった。ソ連邦の崩壊は、北朝鮮にとりわけ深刻な影響を与えた。北朝鮮は経済的孤立に直面し、そして帝国主義の攻撃に対し一層晒されやすくなったのである。

北朝鮮と残存するその他全ての歪曲された労働者国家を米国の資本主義支配者から防衛することは、アメリカのプロレタリアートの階級利益に合致している。米国資本主義支配者による国外での戦争や占領は、国内において、労働者階級、黒人、移民、そしてその他全ての抑圧された人々に対する戦争と結び付いている。米帝国主義による残忍な略奪行為は、資本主義支配者に「平和的」になるよう訴える改良主義のアピールによって終熄するのではなく、この野獣の腹の中における社会主義革命によってのみ終わらせることができる。われわれは、そうした革命を勝利に導くのに必要な革命的労働者党を鍛え打ち固めるために闘っているのである。

“Left capitulates to imperialist frenzy over missile tests; Defend North Korea!; No to sanctions against North Korea! Hands off North Korea!”, *Spartacist* Japan supplement, 15 July 2006. Translated from *Workers Vanguard*, No. 873, 7 July 2006, with introduction.

出版物の申し込み

申し込みから 2 年間、発行された全ての出版物（不定期刊）及びピラを郵送します。

2 年間の料金：500 円；郵便振替も利用できます 00110-0-49515 SGJ

名前

住所

TEL

スパルタシスト・日本グループ 〒115-0091 東京都北区赤羽郵便局私箱 49 号 03-3981-3090

国際共産主義者同盟（第四インターナショナル）日本支部

2006 年 7 月 15 日

労働組合による印刷